

平成 30 年度 第 3 回 向こう三軒両隣り防災懇談会 報告書

開催日時：平成 30 年 6 月 10 日(日) 16 時 00 分～19 時 30 分

場所：高尾台町会会館 1 階ホール

出席者：38 名

記録者：勝裕 IDPT メンバー

所 感：

防災会会長、副会長の皆さんが出席される中、参加された班長さんお一人お一人が、防災の基本が「顔が見える」町会であることが出発点であることを認識し、地域の安全は、自分と自分の家族の為のものであることを理解し、災害時での「自助」のみならず平常時の「自助」の大切さを学びました。

出席者（敬称略）

町会長＋副会長（1 丁目・3 丁目）＋班長 21 名＋IDPT 14 名＝合計 38 名（2 部出席 34 名）

司会進行：清水 IDPT メンバー

1 部：勉強会「自助が大切なことを学ぶ」

2 部：懇談会「具体的に自助を考える」

議事録内容

1 部：勉強会「自助が大切なことを学ぶ」

1、開会挨拶 片岡町会長

意見交換を通じて懇親を深めたい

2、この会の進め方説明 橋場 IDPT メンバー

隣近所仲良く交流を深めることが一番のねらい

町内の小さなコミュニティを作りたい

3、高尾台町会自主防災会の説明 清水 IDPT メンバー

自主防災会組織の活動方針、自助について、校下環境等について説明（パワーポイント使用）

IDPT の結成は、防災に必要な知識やノウハウを町会内に蓄積し活動出来る組織にすることが目的
活動内容「知る」「作る」「伝える」 楽しみながら活動の輪を広げたい

いざ避難所では、班長を中心とするみんなで協力しあわなければならない

防災は「自助」から、向こう三軒両隣、家族で助け合い自らの命を守ることが出来なければ、助ける側にならない

まず、どうすれば自分が助かることが出来るか、家族が助かることが出来るかを考える

自助の取り組みとして、家具の固定があるが 6 割の方々が対策未実施

まずは自分の身の回りのことから考え、町会の防災力を高めていきたい

4、テーブルごとに意見交換会

「まずは自分のことから考えよう」

- ・自己紹介後、意見交換した

- ・非常持ち出し袋のサンプル、防災倉庫の備蓄品（非常食や、簡易トイレ）について
会館玄関ホールに展示→各テーブル単位で見学する時間を設けた

5、休憩

2部：懇談会「具体的に自助を考える」

6、挨拶、乾杯 山原高樹会会長（IDPTメンバー）

7、各テーブル意見交換

自助について考えよう（今年の冬はどうだったか等）

飲食しながら和気あいあいと、和やかな雰囲気でお話が進んだ

8、各テーブル意見発表

以下内容詳細

○Table1 発表者：田形副会長

- ・地震は突発的に起きるもの、一番対策が必要、まずは自助努力から始めたい
- ・防災グッズの用意は皆さんあまり用意されていない、各家庭によって必要なものは変わる
- ・簡易トイレは安価なものもあるので必要性は高い、一番困ることがトイレ
- ・家庭用のヘルメット人数分用意、テレビ、家具、冷蔵庫転倒防止をすること
- ・災害時は自助が基本、大雪も同様まずは自分の家の前の除雪から、こまめに除雪をすることが大切
- ・助け合うためにもまずは自助から

○Table2 発表者：勝裕 IDPT メンバー

- ・震災経験者から生々しい実体験の話が聞けた、貴重品の取り扱いには要注意
- ・災害時には全国から窃盗団が集まる（残念な話だ）
- ・地震発生時はブレーカーをまず切ること、停電復旧時に火災の原因になることも
- ・簡易トイレ、特に女性の方は大変、高尾台町会の班長が所持する物品に入れても良いのでは
- ・大雪時、小学生の通学ルート（歩道）の雪が多く危険だった、町会独自の除雪チームがあればよい
- ・今日これだけでも、顔なじみになれた、こういう事の積み重ねが大事

○Table3 発表者：出口 IDPT メンバー

- ・非常食などの準備までは出来ていない、非常持ち出し袋の置き場所について置き場所に悩んでいる
- ・ペットのことも考えるが、避難所でのペットは難しい
- ・ガラスの破片防止のための厚みのあるスリッパを寝床ヨコに置いておくといよい
- ・高尾台町会で地震発生した場合、津波は考えられない、阪神淡路大震災に近い被害が想定されるのではないかと、各家庭に小さな消火器を要所。要所に置くことも有効
- ・自分の家から火を出さないようにしたい、ブレーカーの入り切り方法について家族全員が操作できるように練習しておくことも必要
- ・避難所で顔見知り同士であれば、助け合う声掛けが気軽に出来、協力し合えるため、今日のような集まりは非常にありがたい

○Table4 発表者：堅田副会長

- ・たくさんのお話し合いが出来た
- ・非常持ち出し袋に3日分の食料が必要だ 最低救助まで3日かかることを想定
- ・袋の内容は男女別、年齢別で内容は変わる、最強のグッズは「サランラップ」怪我した場合は包帯に、細くすれば紐に、寒いときは身体に巻きつけ、丸めるとスポンジに、皿にかぶせる皿洗い不要節水に
- ・「災害時伝言ダイヤル171」 安否確認が出来る伝言ダイヤル→使い方はいまいち不明、この171ダイヤルを練習するための無料の日がある、一度、その日に171ダイヤルを使ってみたいと思う
- ・ご近所と親しくなることが一番、避難所のトラブルは知らない人同士で発生することが多い
- ・今日のような懇談会があれば安心できる「みんな親しくなりましょう」

○片岡町会長より

皆さんよりたくさん貴重なご意見をいただいた

- ・ 除雪については役員会、町会連合会の会議で話し合い、金沢市に提言していくことになっている
- ・ 防災、除雪に関しては、基本的には自助だが、町会組織としても対策を講じていきたい

9、総括 橋場 I D P Tメンバー

良い意見交換ができた会だった、

向こう三件両隣の活動をこれからも継続し、少しずつでも高尾台町会全体に浸透し、その輪が広まるようにしていきましょう。

長時間にわたり、皆様お疲れ様でした。

最後に全員で後片付けし終了、ゴミは各自持ち帰って頂きました。

以上